

変化をとらえ、変化にチャレンジ!

本格的な業績回復と中長期的な発展に向けて。

第75期 事業報告書
2002年4月1日～2003年3月31日



千代田グループ全体で さらに持続的発展をめざします。



関 誠夫（せき のぶお）

略歴

1970年4月 入社

1987年5月～94年5月

米国千代田インターナショナルコーポレーション出向

1994年5月 ファインインタストリーズ プロジェクト部長

1997年6月 取締役 SIプロジェクト本部副本部長

1998年6月 常務取締役 企画管理部門 副部門長

2000年8月 専務取締役 事業統括

2001年4月 取締役社長

社長に就任して早や2年、会社経営に責任を負う者として、身を引き締めて取り組んでまいりました。まだまだ不十分ではありますが、最近では企業体質が改善され体制も整いました。

業績も大分持ち直してまいりました。株主の皆様のご期待に少しでも近づけるべく、一層の努力を続けてまいりますのでよろしくお願い致します。

取締役社長 関 誠夫

業績が順調に回復してきましたね。

新再建計画を一日でも早く達成すべく「プロジェクト・スーパー X」と名づけた全社運動を展開しています。目線を高く持ちつつも、技術力、プロジェクト遂行力、リスク管理能力という、いわば当社にとっての両足の筋力を一步一步着実に鍛えてきた効果が出ています。

社内も明るくなってきたようですね。

業績回復と比例して、良い雰囲気になってきました。業務量が増え、また、顧客の駐在も増えた結果、電力消費量も増えてしまいました。まさに、名実共に明るくなってきました。節電に努めます(笑)

もう足元がふらつくことは、無いのでしょうか。

二度とそのようなことを起こさないよう、競争力強化、IT利用による業務遂行の効率化、経営計画管理システムの充実等に注力してきました。贅肉を削ぎ落とし、健全で筋肉質の企業体質に転換したと自信を持ってお話しできます。ご安心ください。

どのような点が課題でしょうか。

見落としがちなのが、意識面です。現状に浮かれることのないよう、緊張感を持った経営を心掛けています。そのために、2003年度のキャッチフレーズを「変化をとらえ、変化にチャレンジ」としました。

「変化をとらえ、変化にチャレンジ」とは、具体的にどんなことを考えているのですか。

顧客要望の変化を見逃さず適切な対応をとることができるよう、技術力、プロジェクト遂行力、リスク管理能力の継続的改善を徹底していきます。

現状について教えてください。

足元の収益計画・受注計画についても、非常に堅固です。当社に信頼を置いてくださる顧客の皆様への応援の声も多数聞こえています。視界の前方には、当初、ベネズエラのゼネスト、イラク戦争といった嵐がありましたが、今は前方視界も良好であり、数年先がはっきり見えています。自分自身の不注意で転ばないように注意しながら、そして応援して下さる皆様をしっかりと聞きながら、順調なペースで心臓破りの丘^注を駆け上っているところです。

受注戦略について教えてください。

産ガス国では、天然ガス利用の多角化が進み、LNG(液化天然ガス：発電・都市ガス用原料)に加え、ガス化学(エチレン、メタノール、肥料等)、GTL(天然ガスからガソリン・灯油を製造)、ガス焼き発電等の用途が拡大しています。LNGに加え、天然ガスを原料とするこれら一連の案件群(天然ガスヴァリューチェーンプロジェクト)に対し、経営資源を重点配分します。当面は、中東・アジア地域が中心になると見えています。

社長自身も、中東プロジェクトに従事していたそうですね。

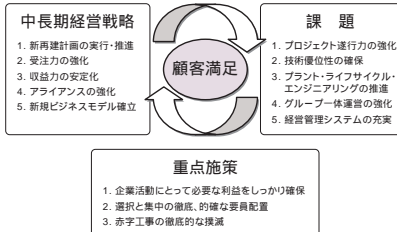
カタールとイラクに駐在していましたが、印象深いのはイラクです。今回のイラク戦争の報道で、ルメイラ油田というイラク南部の油田の名前を聞かれた方も多いかと思えます。イラン・イラク戦争の真っ最中の1981年から1983年の間、そのルメイラ近郊でのプラント建設に従事していました。50 を超える日もある暑さの中、戦時下ということもあり、苦労も多かったのですが、それだけに完工したときの喜びもひとしおでした。

思い出深いイラクの復興が気になるそうですね。

ガソリン・LPGが不足していると聞いています。当社グループは、イラク国内で製

全社運動:プロジェクト・スーパーX

新再建計画(平成18年3月期に累積損失解消)の早期達成
株主への充分な還元、社会への貢献及び従業員の処遇充実のための基盤作り



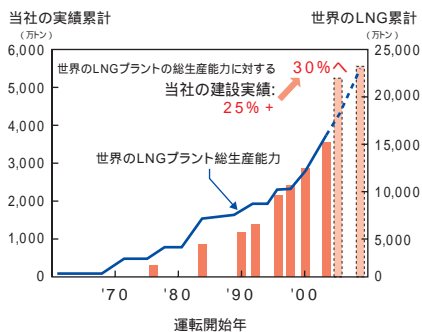
連結業績

(単位:億円)

科 目	第75期	第76期予想
受注高	2,490	2,700
受注残高	3,161	3,861
売上高	1,663	2,000
営業利益	15	45
経常利益	23	42
当期純利益	19	34

注：心臓破りの丘
米国マサチューセッツ州ボストンで開催されるボストンマラソンのコースで、30km手前地点から35km地点ぐらいまで続く、全コースで最後の長い上り坂。この坂を越えると、ゴールが確実に見えてくる。

世界のLNGプラント建設は 少数のプレーヤーに



油所、LPGプラント等の実績があります。

当社グループとしても、また自身としても、新生イラク社会から必要とされれば、ぜひとも恩に報いたいと考えています。社会への貢献があってこそ、企業の中長期的成長が達成されるといつも考えています。

今後の成長のために、どのような戦略を考えているのですか。

当社の技術力・遂行力を必要とする顧客を対象に、長期的な信頼関係を構築します。顧客・社会の持続可能な発展に寄与することがその鍵です。当社は、プラント・ライフサイクル・エンジニアリングを展開して顧客満足を獲得し、顧客の持続可能な発展に寄与していきます。

成長戦略：プラント・ライフサイクル・エンジニアリング (PLE) とは？

当社グループのエンジニアリング資産(データベース)に基づく先端的なソリューションを顧客に提供することで、プラントという顧客の資産が、計画段階から建設・運転・保守・更なる改善計画立案に至る一連のライフサイクルを通じて、コスト・品質・環境負荷等のあらゆる面を考慮の上での全体最適化がなされることとなります。

この過程で当社グループのエンジニアリング資産は、更に情報が蓄積・更新され、顧客に対し、より最新で、買い求められるプラント・ビジネスモデルを提案できるようになります。

PLEを推進することで、天然ガスヴァリューチェーンプロジェクトの受注が拡大するのでしょうか。

当社のエンジニアリング資産の中核の一つは、ガス関連技術です。ある海外顧客から2002年に発注して頂いた天然ガスヴァリューチェーンの案件では、PLEを展開し十分な実績・知見を凝縮した当社の最新技術提案と長期的信頼関係の構築を経営方針とする当社の姿勢を評価していただき、入札金額が最安値の競争他社を逆転の上で、発注して頂きました。今後もPLEをこの分野に積極適用していきます。



グループ体となってPLEを推進する体制も固まってきましたね。

当社グループのエンジニアリング資産を基に最先端の技術コンサルティングサービスに特化する、千代田アドバンス・ソリューションズ(株)〔ChAS〕という戦略会社を2002年度に創設しました。初年度から黒字を確保し、順調なスタートを切りました。一つ例をお話ししますと、ChASの高度解析技術で予見された、プラントの運転上の問題を国内顧客に助言したことがありました。



顧客がプラントの運転を一時中止して検査を実施した結果、コメント通りの問題点が発見されました。大急ぎで補修せよということで、当社グループ内の国内工事遂行機能(千代田工商(株)、千代田計装(株))をフル活用し、短納期で完工し、事無きを得て感謝のお言葉を頂戴しました。

最後に、2004年3月期の抱負について教えてください。

株主の皆様を始めとするご関係各方面に対し、本格的な業績回復と中長期的発展を実証します。当社再生に向けての正念場であり心臓破りの丘に差し掛かったところ、と考えています。

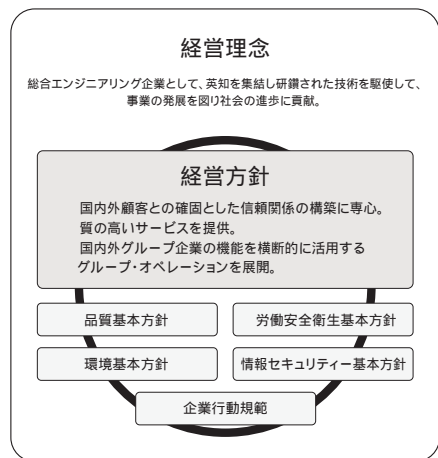
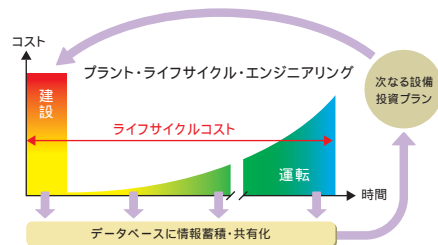
無事に丘を超えられそうですか。

やるべきことは全て手を打ってまいりましたので、越える自信はあります。もう間もなく丘の頂上が見えてくると思いますし、当面のゴールである累積損失解消と株主の皆様への還元も丘の頂上のすぐ先に見えてくるのではないかと考えています。

本日は、お忙しいところありがとうございました。

さらなる飛躍を目指し、引き続き努力を重ねてまいります。

今後も再生千代田に向けてご支援ください。



連結事業レポート

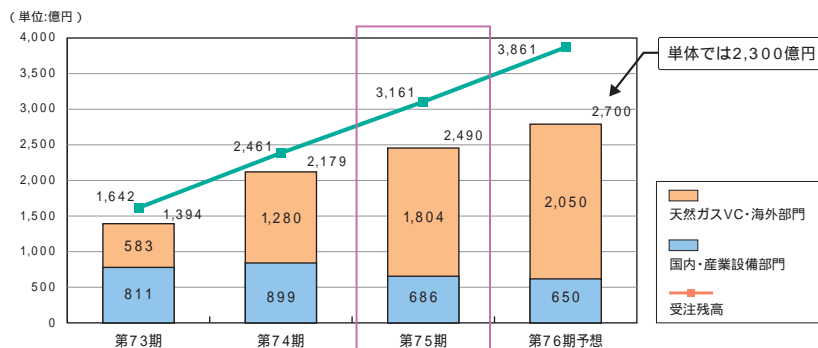
営業の概要

当期の連結受注工事高は、国内686億5300万円(前期比23.7%減) 海外1,804億8800万円(同40.9%増) 合計2,490億9300万円(同14.3%増)を獲得しました。

連結完成工事高については、国内830億5300万円(前期比13.9%減) 海外833億1300万円(同84.8%増) 合計1,663億6700万円(同17.6%増)となりました。

業績面では、完成工事総利益は、一定水準の受注採算確保を目的としたリスクマネジメント手法を前期に導入した効果もあり、104億4300万円(同123.1%増)と大幅に改善しました。加えて、販売費及び一般管理費の更なる削減に努めた結果、営業利益は15億4800万円と8期ぶりに黒字転換しました。経常利益についても、借入金返済を推進し金利負担を圧縮したため、3期ぶりに黒字化し、23億9300万円となりました。当期利益は19億9900万円(同1,546.5%増)を計上し、当期の主な目標である営業損益、経常損益、当期損益の各段階における黒字化を達成することができました。

引き続き好調な受注



第75期の主な受注工事

	天然ガスヴァリューチェーン・海外部門	国内・産業設備部門
200億円以上	LNG設備(オマーン)	
200億円未満	メタノールプラント(サウジアラビア) スチレンモノマー等プラント(中国) LNG設備増設(カタール) ガス開発プロジェクト(カタール)	LPG国家備蓄プロジェクト 特殊化学品設備改造

第75期の主な完成工事

	天然ガスヴァリューチェーン・海外部門	国内・産業設備部門
200億円以上	LNG設備増設(カタール)	
200億円未満	エチレンプラント(サウジアラビア) ポリカーボネイトプラント(シンガポール) LPG岩盤貯蔵ターミナル(中国) 肥料プラント(イラン) メタノールプラント(サウジアラビア)	水素製造設備ほか(新日本石油精製) 排煙脱硫設備(関西電力) LNG基地(水島エルエヌジー) 製剤工場(味の素ファルマ) 軽油超深度脱硫設備(太陽石油)

工事進行基準適用工事

受注・完工の状況

石油分野

石油精製各社向けの一連の軽油超深度脱硫関連工事はほぼ完了し、将来の環境問題を見据えたガソリンのサルファーフリーやC重油削減対応への動きがありました。

環境関連では北陸電力(株)と共同開発した触媒酸化法による排煙脱硫装置(CASOXプロセス)の商業装置1号機を新日本石油精製(株)大阪製油所に納入いたしました。

新エネルギー分野では、北海道勇払ガス田において石油公団向けGTLパイロットプラントでの国内初の合成油製造に成功し、現在試験運転中であり将来の展開が期待されます。

当期は、新日本石油精製(株)向け蒸留塔改造工事他を受注し、受注工事高は97億32百万円(前期比46.2%減)となりました。一方、完成工事高は344億96百万円(同296.8%増)となり、主なものは、新日本石油精製(株)向け第2硫黄回収装置、



勇払GTLパイロット



軽油深度脱硫装置(高压系)

水素製造装置、触媒酸化法排煙脱硫装置建設工事及び水島コンビナートルネッサンス計画工事、太陽石油(株)向け軽油超深度脱硫装置建設工事であります。

石油化学・一般化学分野

汎用化学品分野においては、化学各社は従来のエチレン生産指向からプロピレン生産指向へ転換して事業基盤の強化を計画しており、今後プロピレン下流誘導品での設備投資が期待されます。

医薬品分野では、新薬開発力のある大手メーカーは研究開発型に更に特化し創薬企業を目指す一方、将来に備えて製薬・製剤部門を別会社化したうえで他社の受託製造を行うための環境を整備したり、吸収合併に伴う設備近代化投資が実施される等、薬事法改正を視野に入れた新薬開発競争は更に加速しました。

海外では、中東、東南アジア、中国においてエチレン、メタノール、エチレンオキシド/エチレングリコール、酢酸等の石油化学プロジェクトや特殊化学品設備の分野で動きがありました。

当期は、サウジアラビア向けメタノールプラント建設工事、中国向けスチレンモノマー等プラント建設工事、三菱瓦斯化学(株)向け特殊化学品設備改造工事等を受注し、受注工事高は486億63百万円(前期比2.7%増)となりました。

一方、完成工事高は358億25百万円(同1.8%増)となり、主なものは、帝人シンガポール社向けポリカーボネイトプラント第4期建設工事、米国ダウ社向け中国エポキシプラント建設工事、住化バイエルウレタン(株)向け特殊化学品プラント増強工事、味の素ファルマ(株)向け福島工場新製剤棟建設工事であります。



ポリカーボネイトプラント

ガス・動力分野

国内景気の低迷による電力需要の伸び悩みと規制緩和による電力・ガス小売りの自由化等を受け、電力・ガス各社は引き続きコスト削減を進め大型設備投資は先送りされたため、依然として厳しい受注環境にありましたが、LPG国家備蓄の分野では計画通りの設備投資が行われました。

海外では、インド、中国が新たにLNGの輸入開始を決定し、天然ガス価格が高騰している米国や欧州の輸入量も増加しました。LNG需要の中



カタール湾岸ガス開発プロジェクト調印式

長期的な拡大傾向のなか、上流から最終マーケットに至る各種プロジェクトを対象としてガス利用分野の広がりに伴うエンジニアリングサービスの拡大が期待されます。

当期は、カタール向けLNG液化プラント第4系列増設工事、オマーン政府向けLNG液化設備建設工事、エクソンモービル向けカタール湾岸ガス



2002年10月にカタールのドーハで開催されたGASTECHの会場で、顧客と関社長がカタール向けLNG液化プラント第4系列増設工事のオプション行使を祝い握手しているところで、翌地元紙に掲載されたものです。

開発プロジェクト・フェーズ1建設工事、LPG国家備蓄プロジェクト波方基地並びに倉敷基地設備設計・工事等を受注し、受注工事高は1,470億49百万円(前期比41.5%増)

となりました。

一方、完成工事高は479億72百万円(同60.5%増)となり、主なものは、インドネシア向けプラタミナLNG設備改修工事、BP向け中国LPG岩盤貯蔵ターミナル建設工事、東京電力(株)向け東扇島LNG設備増強工事であります。



プラタミナLNG設備の計器室



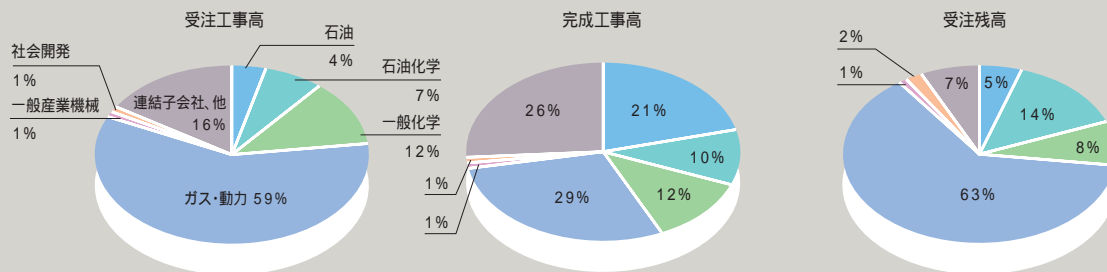
中国LPG岩盤貯蔵ターミナルのLPG貯槽

社会開発・一般産業機械・その他分野

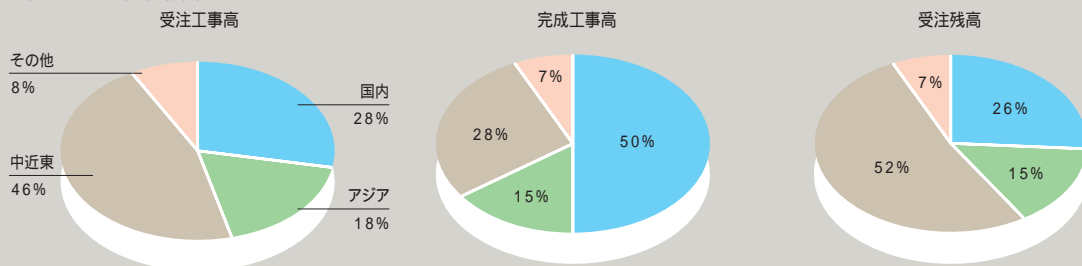
IT不況からの回復傾向にありましたが、製品価格の下落もあり、当社が得意とする電子材料・高機能フィルム分野での設備投資は低調に推移しました。

当期は中小案件の受注が中心となり、受注工事高は436億47百万円(前期比10.2%減)となりました。一方、完成工事高は480億72百万円(同29.0%減)となり、主なものは、ファルマシア(株)向け筑波包装工場改造工事であります。

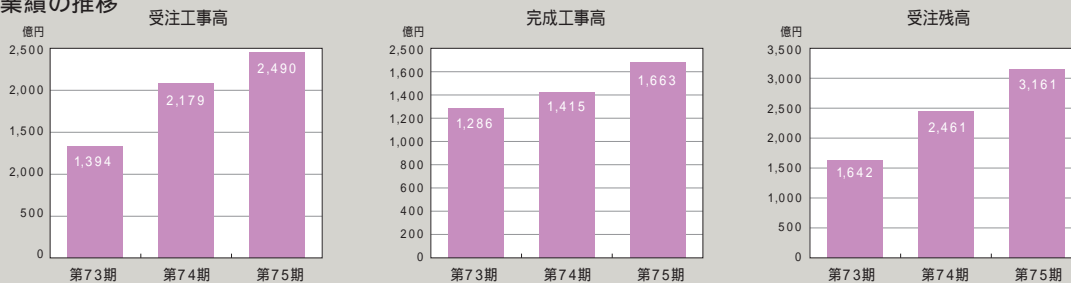
当期の分野別割合



当期の地域別割合



業績の推移



連結決算レポート

流動資産

前期末と比べ54億円減少し、969億円となりました。これは、その他流動資産が38億円増加した一方で、現金預金が43億円、受取手形及び完成工事未収入金が22億円、未成工事支出金が28億円それぞれ減少したことによります。

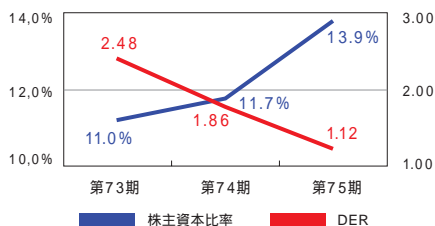
固定資産

前期末と比べ36億円減少し、234億円となりました。これは主に、長期滞留債権の回収に伴う投資等の減少32億円、並びに減価償却による有形固定資産の減少5億円によります。

流動負債

前期末と比べ115億円減少し、894億円となりました。これは、支払手形及び工事未払金が62億円増加した一方で、短期借入金が93億円、未成工事受入金が85億円それぞれ減少したことによります。

株主資本比率と負債純資産倍率(DER)



資本の部

当期利益20億円を計上したことから、累積損失(利益剰余金のマイナス)は5億円となり、累積解消まであと一歩となりました。この結果、資本合計は167億円、株主資本比率は13.9%となり、前期末と比べそれぞれ16億円の増加、2.2ポイントの改善となりました。

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第74期 (2002年3月31日現在)	第75期 (2003年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	102,302	96,929
現金預金	40,451	36,112
受取手形及び完成工事未収入金	27,580	25,374
未成工事支出金	23,909	21,105
ジョイントベンチャー持分資産	8,222	8,672
その他流動資産	2,506	6,293
貸倒引当金	367	628
固定資産	27,011	23,367
有形固定資産	7,541	7,067
無形固定資産	2,247	2,317
投資等	17,222	13,983
資産合計	129,314	120,297
負債の部		
流動負債	100,915	89,404
支払手形及び工事未払金	40,343	46,511
未成工事受入金	33,713	25,172
短期借入金	17,456	8,202
その他流動負債	9,402	9,518
固定負債	12,803	13,724
長期借入金	10,672	10,422
その他固定負債	2,130	3,302
負債合計	113,718	103,129
少数持株分	492	499
資本の部		
資本金	12,027	12,027
資本剰余金(資本準備金)	5,818	5,818
利益剰余金(欠損金)	2,516	496
自己株式ほか	226	680
資本合計	15,103	16,669
負債・少数持株分及び資本合計	129,314	120,297

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第74期 (自2001年4月1日 至2002年3月31日)	第75期 (自2002年4月1日 至2003年3月31日)
完成工事高	141,505	166,367
完成工事原価	136,825	155,924
完成工事総利益	4,679	10,443
販売費及び一般管理費	9,826	8,894
営業利益(は損失)	5,146	1,548
営業外収益	2,765	1,751
営業外費用	984	906
経常利益(は損失)	3,366	2,393
特別利益	6,436	1,708
特別損失	1,208	1,593
税金等調整前当期純利益	1,860	2,508
法人税、住民税及び事業税	1,786	951
外国税金還付額	-	317
法人税等調整額	88	146
少数株主利益	41	22
当期純利益	121	1,999

完成工事総利益

完成工事総利益率は6.3%と、前期の3.3%より3ポイントの大幅改善となりました。

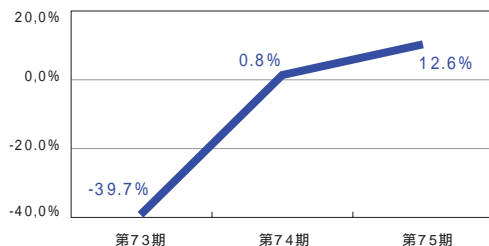
営業利益

8期振りに黒字転換し、営業利益率は0.9%となりました。

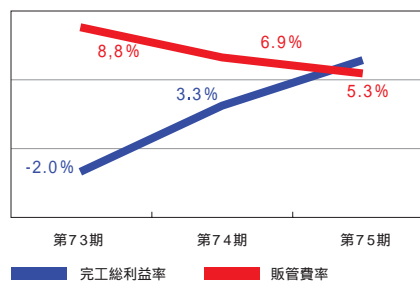
当期純利益

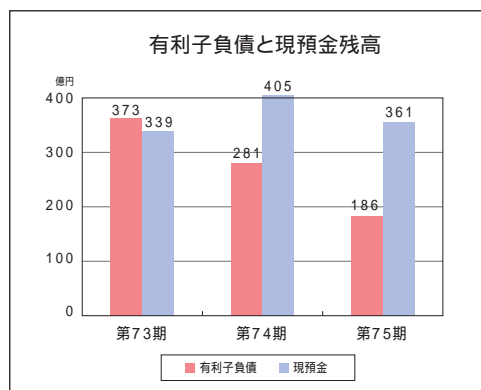
当期純利益20億円を計上した結果、株主資本当期純利益率(ROE)は12.6%(前期0.8%)一株当たり当期純利益(EPS)は10.79円(前期0.65円)となり、前期と比べ大幅に改善しました。

株主資本当期純利益率(ROE)



完工総利益率と販管費率





キャッシュフロー

前期に引き続き、営業活動より獲得したキャッシュ・フローを積極的に有利子負債の削減に充て、支払利息負担の軽減に努

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位: 百万円)

科 目	第74期 (自2001年4月1日 至2002年3月31日)	第75期 (自2002年4月1日 至2003年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	1,860	2,508
減価償却費	1,025	1,225
その他の損益	7,008	813
営業に関する資産の減少額	13,610	3,948
営業に関する負債の増加額(減少額)	1,382	2,372
その他の資産・負債の増減	215	2,250
(小計)	11,087	6,747
利息及び配当金の受取額	1,421	1,576
法人税等の支払額	1,718	790
その他	371	594
営業活動によるキャッシュ・フロー	10,418	6,939
投資活動によるキャッシュ・フロー	204	873
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金純減少額	5,266	8,717
長期借入金純減少額	617	783
その他	8	42
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,875	9,544
現金及び現金同等物の期末残高	38,677	34,940

連結剰余金計算書

(単位: 百万円)

科 目	第74期 (自2001年4月1日 至2002年3月31日)	第75期 (自2002年4月1日 至2003年3月31日)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	-	5,818
資本剰余金期末残高	-	5,818
利益剰余金の部		
利益剰余金(欠損金)期首残高	26,288	2,516
利益剰余金(欠損金)増減	23,772	2,019
当期純利益	121	1,999
その他	23,651	20
利益剰余金(欠損金)期末残高	2,516	496

単体決算レポート

貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	第74期 (2002年3月31日現在)	第75期 (2003年3月31日現在)
流動資産	76,450	71,513
固定資産	28,641	25,879
有形固定資産	3,238	3,305
無形固定資産	2,156	2,257
投資等	23,247	20,315
資産合計	105,092	97,392
流動負債	82,761	71,575
固定負債	11,779	12,623
負債合計	94,540	84,198
資本金	12,027	12,027
資本剰余金(資本準備金)	5,818	5,818
利益剰余金(欠損金)	7,289	4,604
自己株式	5	48
資本合計	10,551	13,193
負債及び資本合計	105,092	97,392

キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	第74期 (自2001年4月1日 至2002年3月31日)	第75期 (自2002年4月1日 至2003年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,043	3,407
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,382	1,169
財務活動によるキャッシュ・フロー	5,712	8,351
現金及び現金同等物の期末残高	29,938	23,703

損益計算書

(単位:百万円)

科 目	第74期 (自2001年4月1日 至2002年3月31日)	第75期 (自2002年4月1日 至2003年3月31日)
完成工事高	105,609	130,470
完成工事原価	105,238	123,479
完成工事総利益	370	6,990
販売費及び一般管理費	7,028	6,372
営業利益(は損失)	6,658	618
営業外収益	3,016	2,619
営業外費用	888	936
経常利益(は損失)	4,529	2,301
特別利益	7,810	1,751
特別損失	2,157	1,645
税引前当期純利益	1,123	2,407
法人税、住民税及び事業税	1,069	192
法人税等調整額	-	84
当期純利益	53	2,684

損失処理

(単位:百万円)

科 目	第74期 (2002年6月27日 株主総会決議)	第75期 (2003年6月26日 株主総会決議)
前期末未処理損失	7,343	7,289
当期純利益	53	2,684
当期末未処理損失	7,289	4,604
次期繰越損失	7,289	4,604

連結グループの状況

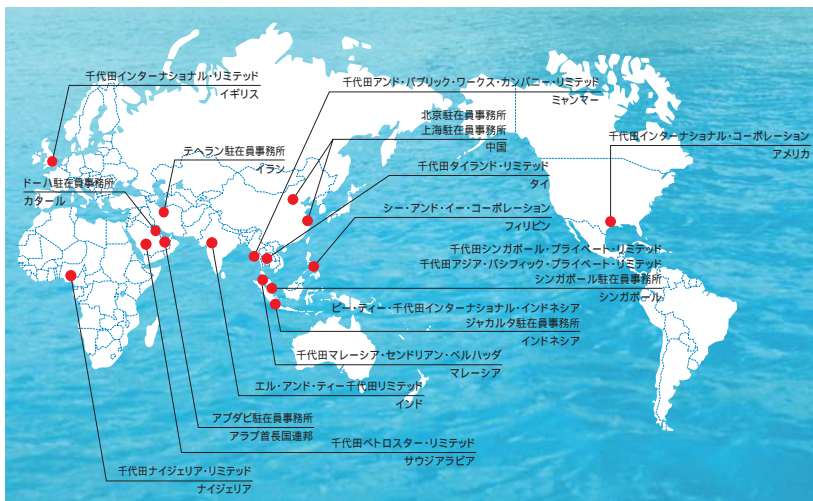
グループ体となった トータルサービス体制

当社は、当社のグループ会社(子会社32社及び関連会社13社)との一体体制でプラントの計画から設計・施工、運転・改造・メンテナンス、更には次なる設備投資ビジネスプラン作りまでを一貫してご協力できるサービス体制を整えてまいります。

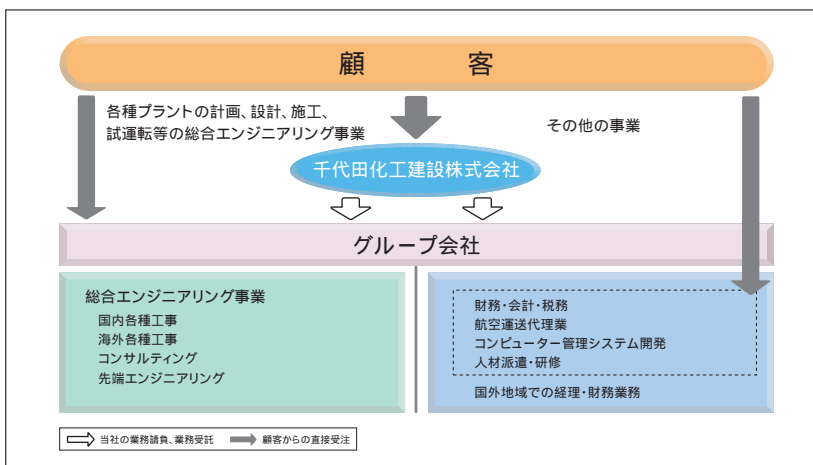
当社の総合プラントエンジニアリング事業のうち電気・計装部門の設計・調達・施工機能を担う千代田計装(株)、医薬品プロジェクト案件の建築部門を担う千代田テクノエース(株)をはじめ、プラントの計画の際に必須となるシミュレーション技術・コンピュータ解析技術他の先端技術を駆使する千代田アドバンス・ソリューションズ(株)、プラント施工後のメンテナンス・改造工事等を担う千代田工商(株)などのグループ会社があり、プラント・ライフサイクル・エンジニアリングを提供できるサービス体制を構築しております。

また、海外においては、現地施工会社を中東及びアジア各国に要し、加えて、優れたエンジニアリングサービスを国際競争力ある価格で提供するLCE(ロー・コスト・エンジニアリングセンター)とともに、世界規模でもトータルサービスを提供できる体制としております。

グローバル・ネットワーク



グループ各社のオペレーション展開



TOPICS

世界最大の天然ガス液化プラント「サハリン2」を共同受注

当社と東洋エンジニアリング(株) (TEC)は、ロシア企業2社と共同で、サハリンエナジー社(シェル:55%、三井物産(株):25%、三菱商事(株):20%)により出資されたプロジェクト投資会社)と、ロシア・サハリン天然ガス液化(LNG)プラントの初期契約を5月15日に調印し、6月2日には設計・調達・建設(EPC)契約が締結されました。

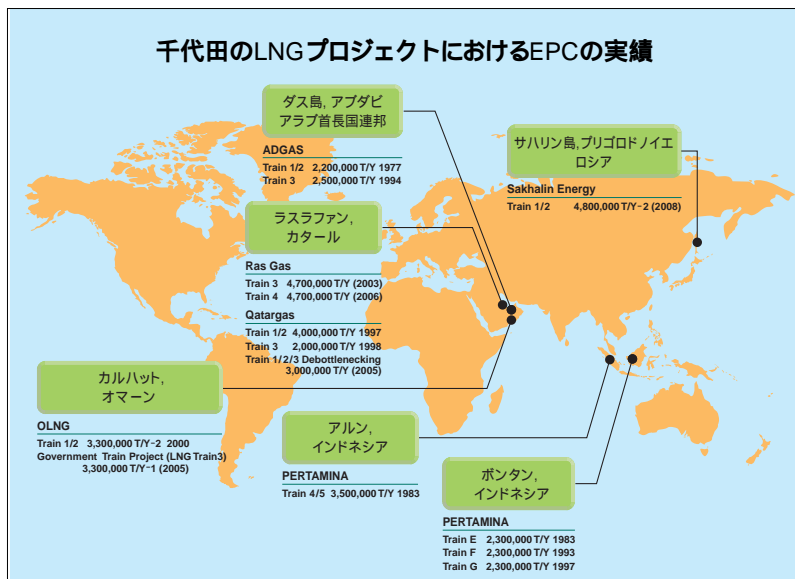
本プロジェクトの建設予定地はロシア共和国サハリン島南部プリゴロドノイエ地区で北海道の稚内から160Kmに位置します。今回建設されるLNGプラントの液化装置は2系列で、1系列あたり年間生産量は480万トン、合計年間生産量は960万トンとなり、世界最大となります。LNGプラントの運転開始は2007年を予定し、液化の心臓部であるプロセス部分に、サハリンのような寒冷地におけるLNG生産に最適とされる、Shell

開発のDMR(二重混合冷媒)プロセスを、商業プラントとして世界で初めて採用します。本プロジェクトのLNGプラント部分はLNG液化装置、10万m³のLNGタンク2基及びLNG出荷設備から構成されています。

当社はLNGプロジェクトのEPCにおいて、世界規模でのサービスを提供しており、この受注により世界の主要LNGプロジェクトにおける



天然ガス液化基地の建設予定地はサハリン島南部プリゴロドノイエ地区。北海道稚内より約160Km、フェリーで約5時間程度の距離。サハリン州の州都ユジノサハリンスクからは約50Kmの所に位置する。



当社のシェアは約3割を占めることとなります。本プロジェクトは、本年始めに受注したオマーン政府LNGプロジェクトを含む当社の豊富なLNGプロジェクトでのEPC経験と技術的優位性、及びTECのロシアでのプロジェクト遂行上の知見と経験が評価され、今回の受注につながったものです。当社はカタール、オマーンのプロジェクトに続き、LNGプロジェクトを連続して受注しており、LNG分野で圧倒的な強さを誇っています。当社は本プロジェクトの基本設計業務もオランダのフロアー・ダニエル社と共同で遂行しました。

天然ガス埋蔵量世界一のロシアにおいて初となる本LNGプロジェクトは、将来のロシア国内各種ガス関連プロジェクトの礎石となると期待されています。

ACETICA[®]プロセス、中国に商業1号機ライセンス供与

2002年8月31日、自社開発の新酢酸製造プロセス「ACETICA[®]」の初めてのライセンス供与契約が中国の貴州水晶有機化工(集団)有限公司と締結され、盛大に調印式が執り行われました。本契約にはプロセスデザインパッケージ作成業務も含まれています。

ACETICA[®]プロセスはメタノールと一酸化炭素から酢酸を作るプロセスであり、当社が1991年に触媒の開発に成功し、これまでプロセスの開発を行ってきたものですが、ここに商業装置の第一歩として実を結びました。

顧客はこれまで水銀法により酢酸を製造してきましたが、有

機水銀による環境汚染が問題となり、日本の環境円借款を適用し製造方法の転換をすることとなり、当社のACETICA[®]プロセスを選択頂きました。本プロセスの特徴は樹脂にロジウムを担持した不均一触媒を使用し、反応器として気泡塔を採用している点です。これにより、既存のプロセスに比べ触媒ロスおよび副反応を少なくできるため経済性、運転性に優れた特徴を持っています。

2003年現在、本プロセスデザインパッケージ作成業務に引き続き、これに基づく商業第一号機の契約が控えており、この受注を目指しております。

IMC社向けメタノールプラント正式調印

2002年7月に発注内示を受け、設計業務を遂行しておりましたInternational Methanol Company(IMC)向けメタノール・プロジェクト、ユーティリティ・オフサイト・プロジェクトは去る2002年12月23日に契約の正式調印に至りました。

調印式典はサウジアラビア・アルコバールのSaudi International Petrochemical Company(SIPC)本社にて、IMCの親会社であるSIPCのAl-Ohali社長(兼IMC社長)、SIPC傘下で次期計画中のブタンジオールプラント運営会社のGulf Advanced Chemical Industries Company(GACIC)社よりBhairi社長が臨席され、当社より山村副社長、現地法人Chiyoda Petrostar Limitedより和泉社長が出席し、盛大に行われました。

本プロジェクトはサウジアラビアの豊富な天然ガスを原料に日産2,900トンのメタノールを生産する設備と付帯施設建設プロジェクトであり、顧客側ファイナンス組成完了を受けて今回の正式契約調印に至りました。

2003年1月初めから現場にて仮設事務所の工事が開始され、

2003年3月に土木工事に着手致しました。本契約は内示書受領日である2002年7月25日を起算日に30ヶ月で性能保証試験完了という大変短い納期のプロジェクトであり、2005年1月25日の契約納期を守るべく現在急ピッチで設計、調達業務が進行しております。



メタノールプラント調印式

カタールでエクソンモービルから大型ガス開発プロジェクトを受注 天然ガスヴァリューチェーン案件に本格参入

2003年3月、当社は三井物産(株)及びブナムプロジェクティ社(イタリア、ミラノ市)と共同で、エクソンモービル社向け湾岸ガス開発プロジェクト(アルカリージ(アラビア語で「湾岸」の意)ガスプロジェクト)フェーズ1の設計・調達・建設(EPC)を受注しました。本受注は、イラク戦争が開始され中東地域全体の緊張が高まる状況下での大型受注となりました。

今回建設されるガス処理設備は、ラスラファン工業団地内に当社が建設中のLNGプラントに隣接して建設されるものであり、本プロジェクトは、同国が有する豊富なガス田「ノースフィールド」(推定埋蔵量900兆立方フィート・LNG180億トン相当)からのガスを利用するプロジェクトの主軸となり、現在計画されている中近東地域初のGTLプラント及びラスラファン地区の独立系水道・発電事業(IWPP)等の各種工業プロジェクトに精製ガスを供給する重要な施設となります。

当社受注のカタール向けガス関連プラントとしては、1998年完成のカタール液化天然ガス社(カタールガス)向け第1~3系列、2001年10月に受注した同プラント増強工事(遂行中)、2001年4月に受注したラスラファン液化天然ガス社(ラスガス)向け第3系列(遂行中)及び2002年9月に受注した同第4系列(遂行中)に次ぐもので、同国における一連の天然ガス関連のプロジェクト商談において圧倒的な強さを示しております。

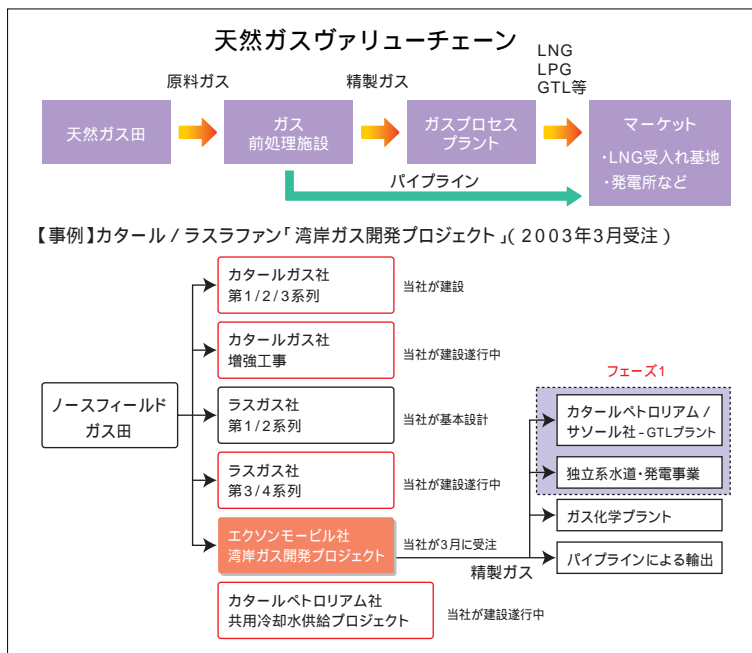
本プロジェクトは、かねて当社グループが上記プロジェクトで示してきた卓越したプロジェクト遂行能力やこれまでのカタールにおける実績及び優れた技術力が同国政府や出資各社に高く評価され契約に至ったものであります。

また、2003年1月にはオマーン政府から液化天然ガスプラントを受注しており、中東湾岸地域での天然ガスヴァリューチェーンプロジェクトの成功に大きく貢献しております。このような中東情勢下、当社は現在中東湾岸地区で遂行中のプロジェクト共々、危機管理を徹底しており、安全に細心の注意を払いつつプロジェクトの完遂を目指しております。

1「天然ガスヴァリューチェーン」とは：

地球上に内在する天然ガスを利用して価値を生み出す、上流から最終マーケットに至るまでのプロジェクトチェーンの総称。当社ではこのようなガス利用分野の広がりに伴うエンジニアリングサービスの拡大に鑑み、2003年4月1日付で旧LNG部門を天然ガスヴァリューチェーン部門として組織改編しました。

2 プラント概要：天然ガス前処理設備、NGL(天然ガソリン)回収設備、ガス分留設備、ユーティリティ設備LPG(液化石油ガス)タンク/出荷設備



会社の概況

会社概要

設立	昭和23年1月20日
資本金	12,027,676,450円
従業員	1,058名
主要な事業内容	石油、ガス、石油化学、一般化学、原子力、石炭、電力、製鉄、造水、食品、生化学、医薬品、医療、運輸、流通等の産業用、民生用設備並びに公害防止、環境改善及び災害防止用設備等についての計画、設計、製作、建設、試運転
主要な営業所及び事務所	本店 / 横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号 千代田研究開発センター / 川崎市川崎区南渡田町1番1号
国内営業所及び事務所	東京、子安、大阪、高松、沖縄、仙台、水島
海外駐在員事務所	ドーハ、アブダビ、テヘラン、シンガポール、ジャカルタ、北京、上海

主要な連結子会社

千代田計装株式会社	横浜市神奈川区
千代田工商株式会社	横浜市鶴見区
アローヘッド・インターナショナル株式会社	東京都港区
千代田テクノエース株式会社	横浜市鶴見区
ユーテック・コンサルティング株式会社	横浜市鶴見区
アロー・ビジネス・コンサルティング株式会社	東京都港区
千代田アドバンス・ソリューションズ株式会社	横浜市神奈川区
千代田シンガポール・プライベート・リミテッド	シンガポール
千代田インターナショナル・コーポレーション	アメリカ合衆国
千代田マレーシア・センドリアン・ベルハッダ	マレーシア
千代田インターナショナル・リミテッド	イギリス
千代田ナイジェリア・リミテッド	ナイジェリア
千代田タイランド・リミテッド	タイ
ビー・ティー・千代田インターナショナル・インドネシア	インドネシア
千代田アジア・パシフィック・プライベート・リミテッド	シンガポール
シー・アンド・イー・コーポレーション	フィリピン
千代田&パブリック・ワークス・カンパニー・リミテッド	ミャンマー

主要な関連会社

株式会社アローメイツ	横浜市中区
ITエンジニアリング株式会社	横浜市神奈川区
千代田ベトロスター・リミテッド	サウジアラビア
エル・アンド・ティー・千代田リミテッド	インド

役員

* 取締役社長	関 誠 夫
* 取締役副社長	山 村 彰
* 取締役副社長	ジョン L. ローズ
* 取締役副社長	成 富 尚 武
* 専務取締役	市 川 秀
常務取締役	源 淳 郎
常務取締役	久 保 田 隆
常務取締役	小 林 博
取締役	アルバート J. スタンレー
常勤監査役	川 名 通 彦
常勤監査役	石 渡 義 夫
監査役	藤 岡 瑠 晃
監査役	今 出 川 幸 寛

(注)1.*印は代表取締役を示します。

2.アルバート J. スタンレー氏を除く取締役は、執行役員を兼務しております。

常務執行役員	白 崎 善 宏
常務執行役員	門 山 明
常務執行役員	中 谷 秀 雄
常務執行役員	柴 田 博 至
執行役員	香 田 圓
執行役員	下 野 涉
執行役員	坂 口 順 一
執行役員	山 本 孝 士

有資格者数一覽

資格名称	資格名称
土木施工管理技士 - 1級 48	建築士 - 2級 5
土木施工管理技士 - 2級 1	技術士 - 建設部門 2
建築施工管理技士 - 2級 9	技術士 - 機械部門 7
電気工事施工管理技士 - 1級 14	技術士 - 衛生工学部門 4
電気工事施工管理技士 - 2級... 4	電気工事士 - 第1種 2
管工事施工管理技士 - 1級 ... 58	電気工事士 4
管工事施工管理技士 - 2級 7	電気主任技術者 - 第3種 11
建築士 - 1級 23	監理技術者 51

合計 250名

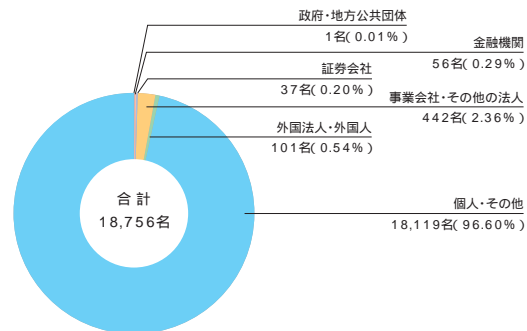
株式の状況 (平成15年3月31日現在)

1 会社が発行する株式の総数	650,000,000株
株式の種類	普通株式 570,000,000株 優先株式 80,000,000株
2 発行済株式総数	普通株式 185,428,529株
3 株主数	18,756名
4 大株主	

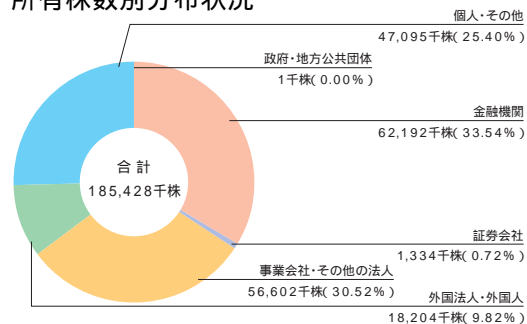
株主名	当社への出資状況	
	持株数 千株	議決権比率 %
三菱商事株式会社	19,851	11.0
日本トラスティサービス信託銀行株式会社信託口	13,740	7.6
三菱信託銀行株式会社	9,034	5.0
株式会社東京三菱銀行	9,033	5.0
ケイピーアール・エムシーインベストメント株式会社	5,994	3.3
株式会社荏原製作所	5,687	3.1
投資信託受託者三井アセット信託銀行株式会社	4,750	2.6
日本マスタートラスト信託銀行株式会社信託口	4,343	2.4
モルガンスタンレーアンドカンパニーインク	*4,024	2.2
UFJ信託銀行株式会社信託勘定A口	3,241	1.8

(注)*印のうち、3,273千株はニューコープ・エス・エーが実質所有しております。

所有者別分布状況



所有株数別分布状況



株式データ



株主メモ

決算期	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会については3月31日。そのほか必要がある場合には、取締役会の決議によりあらかじめ公告のうえ設定いたします。
名義書換代理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
同連絡先	〒171-8508 東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 Tel.03-5391-1900(代表)
公告掲載新聞	日本経済新聞
一単元の株式の数	1,000株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	6366

【お知らせ】

住所変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、株式の相続手続依頼書など株式関係の手続き用紙のご請求は、名義書換代理人フリーダイヤル0120-86-4490で承っております。

平成15年4月1日施行の改正商法により「株券失効制度」がスタートし、株券を喪失された場合の手続きが従来の公示催告・除権判決により再発行を受ける手続きより簡便となりました。詳細は名義書換代理人にご相談ください。

従来より日本経済新聞に掲載していた貸借対照表及び損益計算書の開示については、当期より当社ホームページに掲載することとさせていただきます。

ホームページアドレスは次のとおりです。

http://www.chiyoda-corp.com/index_i.html



千代田化工建設株式会社

本店 〒230-8601 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央二丁目12番1号
電話 045-521-1231(代表) FAX 045-503-0200

<http://www.chiyoda-corp.com/>